

牧草地における野生動物の出没と 獣害の発生状況（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 牧草生育期における鳥獣被害の把握（南相馬市）
担当者 小野 司、大矢浩司

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開地域では、農作物等への鳥獣被害が懸念されるが、牧草地における被害実態は把握されていない。そこで、牧草地（イタリアンライグラス）において野生動物の出没と被害状況を調査したところ、ウサギやキジ等の多様な野生動物が出没し、茎、葉、穂先への被害が確認された。

- (1) 赤外線センサーカメラ5台で野生動物の出没を調査したところ、12種が確認され、牧草生育中は、ウサギやキジが多く出没した（表1）。
- (2) 牧草地では、ニホンザルとみられる葉や穂先への食害や（図1）、ウサギとみられる茎の食害が確認された（図2）。
- (3) 牧草の収穫期に被害状況を調査したところ、乾物収量には、差がみられなかったが、6～15%の被害が確認され、餌場として利用されている可能性がある（図3）。

2 期待される効果

- (1) 営農再開地域の牧草地における野生動物の出没と獣害発生の実態把握に活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 1ほ場8地点（防除区3地点：1m四方の防護柵設置、慣行区5地点：防護柵設置なし）における50cmコドラート調査の結果である。調査は1番草収穫前日の5月1日に実施した。
- (2) ニホンザルやウサギとみられる食害や冬期にはイノシシの出没が確認されており、被害が拡大すると収量への影響も懸念される。
- (3) 被害状況に応じて、防護柵や追い払い等の対策を実施する。

II 具体的データ等

表1 生育中と収穫後の撮影頻度指数
(頭/100カメラ日)

獣種	撮影頻度指数※1		
	生育中 ※2	収穫後 ※3	合計
ウサギ	9.4	1.9	5.6
タヌキ	1.9	1.3	1.6
サル	1.3	0.6	0.9
イノシシ	0	1.3	0.6
キツネ	0.6	0.6	0.6
アナグマ	0.6	0	0.3
アライグマ	0.6	0	0.3
ネコ	0	0.6	0.3
キジ	6.3	5.0	5.6
カラス	0	8.1	4.1
ハト	2.5	1.3	1.9
コジュケイ	0.6	0.6	0.6
不明	0.6	0	0.3

※1 100カメラ稼働日あたりの撮影頭数
(頭/100カメラ日)

※2 生育中:3月31日~5月1日

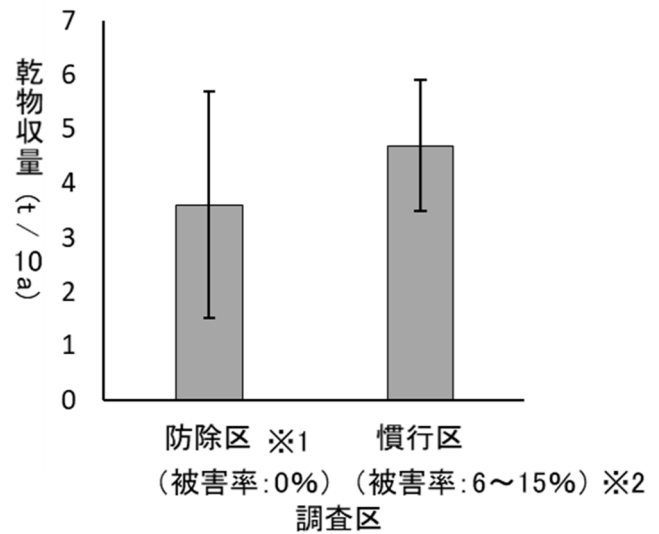
※3 収穫後:5月2日~6月2日



図2 ウサギとみられる茎の食害



図1 ニホンザルとみられる穂先の食害



※1 1m四方の防護柵設置

※2 被害率=被害本数/調査本数×100

図3 イタリアンライグラスの乾物収量 (t/10a)

III その他

1 執筆者

小野 司

2 実施期間

令和2年度

3 主な参考文献・資料

(1)上田弘則, イノシシ (*Sus scrofa*) による牧草地被害の実態とその対策, 日本草地学会誌, 65 (1), p.51-54, 2019